

東日本大震災 学童保育の一日も早い復旧・復興を願って④  
特設分科会 分散会B  
「東日本大震災と学童保育」からの報告

# 陸前高田市と 大船渡市を訪問して

世話人 全国学童保育連絡協議会 副会長 千葉智生

二〇一四年一月二日・二日に岩手県で開催された第四九回全国学童保育研究会（以下、全国研）の特設分科会「東日本大震災と学童保育」では、岩手県沿岸部の被災した地域をバスで訪問する分散会Bを設けました（岩手大学で行われた特別分科会の分散会Aの模様については、本誌二〇一四年二月号の八〇ページをご覧ください）。

全国研の特設分科会「東日本大震災と学童保育」は、二〇一一年一〇月に石川県で開催した第四六回全国研から設けられています。今回、全国研が被災した県の一つである岩手県で開催されることになり、被災した沿岸地域の学童保育を訪問し、震災時の状況やその後の復旧・復興の動きを知り、課題について学びあうために、バス訪問による分散会Bを設けました。この分散

会には、一五都道府県から約四〇名の方が参加しました（約一七〇名の事前応募があり、抽選により、参加者を確定しました）。

バスは、八時に盛岡駅を出発。一時三〇分から約二時間かけて（途中、陸前高田市内での昼食休憩をばさむ）、陸前高田市と大船渡市の学童保育を訪問（車窓からの説明・見学も含む）。そして、一五時に盛岡駅に戻ってきました。

\* \* \*

車中および訪問先では、分散会Bの案内役である濱口智さん（気仙地区学童クラブ連絡協議会・事務局長）による説明が行われました。濱口さんから、震災前の学童保育の状況、被災後の状況と今後の生活の様子、震災後の復旧・復興の取り組みと現状、現在、問題になっていることや今後の課題、

息の長い支援の必要性などについてくわしく説明していただきました。

バスが現地に近づき、「なにもなく、草が生えているでしょう。でも、そこには家があったんですよ」という濱口さんの言葉に、参加者からは「草や黄色の花（セイタカアワダチソウ）におおいつくされた下には、人々が生活をおくっていた歴史や文化があったという現実を思い知らされます」という声がありました。

陸前高田市では、高田小学校に併設された学童保育を訪問し、震災当時の避難の様子などの具体的な話をうかがい、参加者は実際に避難路の一部を歩きました。

大船渡市では、赤崎小学校（学童保育も併設されていた）の跡地のグラウンドと、近くにある公民館（震災当時、屋上まで避難した）、震災後、学童保

育が何度か移転した場所も、車窓から見学しました。

参加者からは、つぎのような感想が寄せられています。

「実際に見ると、話に聞くのではまったく違うというところを感じた分科会でした。学童保育が生活の場として果たす役割と、人と人をつなぐ仕組みは、いざというときこそ大切なのだと思います」

「いつ、どんなことがあったとしても、あたりまえのことをあたりまえにできることを大切に守っていかたいと思っています。今日のことを伝え、忘れず、仲間を大切にしていきたいです」

「テレビでは伝えられない、心の問題」についても、あらためて知りました。大人にとっても、子どもにとっても、

も、心のケアは、本当に大切なんですね。そして、学童保育の大切さ、必要性も、あらためて実感しました」

\* \* \*

東日本大震災から三年七か月たっていますが、日常の暮らしが戻ってくるにはまだまだ課題も多く、これからも、息の長い取り組みが必要であること、毎日の生活の場としての学童保育が大切であることを共に学んだ分散会でした。

## 「東日本大震災学童保育募金」の振込先は下記のとおりです

- ・銀行コード：0005
- ・店番：351
- ・三菱東京UFJ銀行
- ・本郷支店
- ・普通預金 0012273
- ・名義

全国学童保育連絡協議会  
代表 木田保男